

名蔵アンバル

(なぐらあんばる)

位置：北緯24度23分、東経124度8分／標高：0m／面積：157ha／湿地のタイプ：河口干潟、マングローブ林／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区、国立公園特別地域／所在地：沖縄県石垣市／登録：2005年11月／国際登録基準：1、2、3、4、7

湿地のタイプ：河口干潟、マングローブ林



干潟に広がるマングローブ林



東から見た名蔵アンバル

湿地の概要：

南北3,000kmにおよぶ日本列島の南西端に位置する八重山諸島。その中心が石垣島である。沖縄本島から南西へさらに400km、北緯24度、東経124度に位置する。面積2万2,200ヘクタール、人口約5万人の島である。年間の平均気温は24℃。気温の年較差の小さい、亜熱帯気候の島である。

名蔵アンバルは、石垣島の西岸、名蔵湾に面した名蔵川河口部の、東西1.5km、南北2kmほどの干潟である。亜熱帯地域に見られる典型的な湿地である干潟、マングローブ林、海浜および海岸林などで構成される、多様な自然環境がひとまとまりになった、日本では貴重なタイプの湿地である。

海に開けた窪地状の地形に泥質土壌が堆積し、海岸部に砂嘴が形成し、全体として浅いラグーンとなっている。

マングローブと生物多様性：

日本でマングローブが生育するのは限られた地域である。名蔵アンバルはその代表的な存在で、オヒルギ、ヒルギモドキ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギダマシなど、支柱根や呼吸根をもったヒルギ科のマングローブ林を見ることができる。

干潟には、ゴカイやアナジャコなど、さまざまな底生生物、稚魚、甲殻類が生息している。とくにエビ・カニ類は豊富で、イシガキヌマエビ、コツノヌマエビ、ヤ



ミナミトビハゼ



オキナワハクセンシオマネキ

エヤマヤマガニなど、この地域固有の希少種も少なくない。マングローブヌマエビの北限でもある。

コメツキガニ、アシハラガニ、シオマネキなど、これらのカニの生態をユーモラスに擬人化した民謡「綱張ぬ目高蟹(みだが一ま)ゆんた」が、地元の人々に歌われている。

渡り鳥の中継地：

こうした豊富な餌と安全な環境のおかげで名蔵アンバルは、セイタカシギ、アカアシシギ、クロツラヘラサギなどシギ・チドリ類をはじめ、水鳥の渡りの重要な中継地および越冬地になっている。また八重山諸島を北限とする猛禽類のカムリワシなどの森林性鳥類の生息の場にもなっている。



カムリワシ

【カムリワシ】 全長55cm。ノスリほどの大きさの猛禽類。インドから東南アジア、台湾、琉球諸島南部の熱帯、亜熱帯に分布する。日本では西表島と石垣島にだけ留鳥として生息。主に両生類、は虫類を餌にするが、アンバルでは豊富なカニ類も食べている。アンバルの生態系の頂点に立つ存在である。

●関係自治体

石垣市役所 Tel: 0980-82-9911

